



## 李根熙教授へのインタビュー

メンターの視点から見たケースコンペティション: 学生を成功に導く方法



2023年1月時点

## はじめに

2022年、東京で開催された「CFA Institute Research Challenge Japan 2022-2023」において、素晴らしい才能を持つAPUのBチームが有終の美を飾りました。CFA Institute Research Challengeは、財務分析と職業倫理に焦点を当てた世界的なケースコンペティションで、その洗練された水準と競争環境は高く評価されています。APUに所属するBチームの学生たちは、この評価を胸に、将来の夢への道を歩み始めました。ここに至るまでは、メンターの指導とサポートが最も重要です。今semester、ALRCSのプロジェクトQチームは、経験豊富な2人のメンターと素晴らしい成果を挙げた2人の学生の

視点から、ケースコンペティションにおけるメンターの役割について考察します。私たちの記事により、他の先生方がAPUにおけるケースコンペティションの重要性を認識し、メンターとして学生を成功に導く方法を見出す一助となれば幸いです。



CFAリサーチチャレンジのトロフィー

### Q1. 自己紹介をお願いします。

私は韓国出身の Lee Geunhee (李根熙 / イクニ) と申します。2012年から11年間、APUで教授を務めており、消費者行動に重点を置いたマーケティング関連の講義を担当しています。現在は、SNSを活用したバイラルマーケティングや、企業と消費者のコ・クリエーションによるユニークなカスタマーエクスペリエンスの創出について研究しています。APUの教員になる前はビジネスマンで、現在も Airbnb でアパートをいくつか所有し、経営しています。私は人を教え、やる気を引き出すことに情熱を注いでいます。また、APUのコミュニティも非常に大切にしています。

Q2. 李根熙先生は、教育や研究に加えて、RCAPセミナーへの参加、サークル活動やケースコンペティションでの指導やサポート、さらには

YouTubeチャンネル「APU glee」の運営など、様々な課外活動にも積極的に取り組まれているようですが、アクティブに活動する原動力は何ですか？また、他の先生方にも同じように活動されることを勧めますか？

大学教員という職業はプレッシャーが少なく、自分のペースで仕事をすることができます。しかし、私は教員は自分の仕事を愛し、講義だけでなく他の活動を通じて大学や学生に貢献するべきだと考えています。経営という観点から見ると、APUは企業であり、学生は私たちの消費者です。私はこの会社を愛していますから、お客様に最高の経験を提供するためにすべてを捧げたいと考えています。同僚の先生方にも私の考え方を理解・共感していただき、学生のためにベストを尽くしていただきたいと願っています。

Q3. このインタビューでは、課外活動

であるケースコンペティションについてお聞きします。ケースコンペティションについて簡単に教えてくださいませんか。

課外活動の目的は学生が視野を広げ、目標に向かって努力を続けることです。ケースコンペティションは、通常のサークル活動とは異なりますが、学生、特に APM の学生にとっては、授業で学んだことを復習し、実践するための魅力的で不可欠なツールです。基本的に、このコンペティションには企業が参加し、その企業が抱える問題の一つをケースとして提供し、学生はその解決策を考えていきます。解決策を模索した後、学生はフィードバックを受けることができ、また企業は解決案を得ることができます。そのため、こういったコンペティションは双方にとって素晴らしい機会となっています。

Q4. ケースコンペティションにおけるメンターの目的と責任について、詳しく教えてください。先生は教育、アドバイス、その他の活動などの時間管理をどのようにされておりましたか？

メンターの責任は、学生に「こうすべきだ」「こうすべきでない」と伝えることではありません。むしろ、学生が目標を達成するための方法やプロセスについて、プロフェッショナルで偏りのない意見を提案しなければなりません。また、スライドの講評や原稿のチェックなどは、ケースコンペティションでの私の役割の一部です。さらに、ケースコンペティションの成功までの道のりは厳しく、途中で学生の多くは途中でやる気をなくしてしまうかもしれません。そのため、メンターは学生を支え、団結させ、目標が実現できることを確信させる道徳的手助けを行わなければなりません。また、私は書類作成や、移動、宿泊の手配などの面倒もみていま

す。

学生を助けるためには、当然、自分の時間は減らさなければなりません。でも、私が講義で教えている、スケジュールのバランスを取るのに役立つ理論があります。人生には「仕事」「家庭」「地域社会」「自分」という4つの側面があります。この4つの領域は、重なり合うこともありますが、ほとんどの場合、互いに分断されています。ですから、仕事にもプライベートにもプラスになるような重なる部分を作り、それを広げていくとバランスが上手くいきます。APUとAPU生への愛情があれば、それは難しいことではありません。自分の仕事を好きになり、仕事にやりがいを見出すことが、このクロスオーバーを発展させる秘訣です。

**Q5. 先日、先生が指導するチームがCFA チャレンジで優勝しました。教員の視点から見て、どのように成功し**

**たのでしょうか。**

CFAは、金融に特化したコンペティションで、世界でもトップ10に入るケースコンペティションです。予選は地域予選から始まり、全国予選へと続きます。APUからは3チームが参加しましたが金融分野の専門教員の多くが多忙だったため、専門の教員からのサポートが足りていませんでした。私は金融の専門家ではありませんが、モチベーションを上げることはできるので、サポートした結果、チームは優勝し、決勝戦に進みました。

ラッキーだったのは、私のチームの学生が非常に優秀で、モチベーションが高かったことです。Facebookのグループを通じて連絡を取り合い、最新のパワーポイントや資料を共有してもらっていました。私は金融の専門家ではありませんが、実務家として、論理的にプレゼンテーションを行うためのフィードバックを行いました。学生たちは自主的に解決策を考え



ていましたが、東京への出張の手配や資料の準備など、必要なときはいつでも私がサポートしました。最終日には、彼らを応援したり、写真を撮ったり、聴衆の前に立つときの自信をつけてあげたいという一心で東京に飛びました。私はマーケティングの教員であり、過去にマーケティングチームに助言したこともありますが、興味深いことに、私が獲得した唯一のトロフィー金融の分野になりました。

**Q6. 現在、APUでは多くのケースコンペティションが開催されています。国内のコンペティションとAPUのコンペティションの違いについて、どのように感じられていますか？**

全国でのコンペティションと学内でのコンペティションの比較はしない方がいいと思います。APUにはORCAという組織があり、国際的なケースコンペティションに備えるために、学生をトレーニング

し、内部でケースコンペティションを開催しているサークルがあります。APUの場合、テーマはそれほど複雑ではありませんが、これらのコンペティションは良いトレーニングになります。参加者に与えられる時間も、国内や国際的なコンペティションと全く同じです。例えば、テーマを決めて、インターネットがない部屋で、24時間以内にアイデアを練り上げてもらう形式で行われます。手順も重視する点も同じです。異なる点は、学内コンペティションには各チームにアドバイザーがないことです。

**Q7. APUの多様な環境は、全国規模のケースコンペティションで強みになると思いますか？また、このようなケースコンペティションは、APU生の多様性や協調性を促進するツールになり得ると思いますか？**

それはケースコンペティションのテーマ

によって異なりますね。でも、最近のビジネスケースは、グローバル化した問題に基づくものが多いので、APU の多様性は私たちにとって強みになります。多国籍のチームであれば、同じ国のメンバーで構成されたチームとは異なる視点を共有することができます。だから、APU のチームは勝てたのでしょう。問題を多角的にとらえ、一人ひとりの文化的制約にとらわれずに考えることができたからこそ、成功したのです。

“このようなコンペティションは、APU の学生の多様性や協調性を促進するツールになり得るのでしょうか？”はい、もちろんです。私の授業では、期末試験でケースコンペティションのミニ版を実施し、グループで与えられたケースを解決するためのプレゼンテーションを行います。この課題を通じて、学生同士が協力して問題を解決することで、多様な視点を尊重することを学ぶことができます。

**Q10. 今後のコンペティションでも、より多くのチームの指導を続けられるのでしょうか？その場合、今後のコンペティションや学生に対してどのような期待をお持ちですか？**

もちろん、私はこれからも指導を続け、他の教員にも同じようにアドバイスしていくつもりです。私は教えるためだけでなく、仲間や学生から学ぶために教員になったのです。実生活、特にビジネスの世界では、究極の答えというものはありません。その代わりに、私たちは自分の知っていることを活用し、より良い結果を望むしかありません。ですから、学生であれ教員であれ、学び、議論し、比較することによって、常に知識を増やしていくことが成功への鍵なのです。ケースコンペティションは、学生がメンターに自分のアイデアを発表し、フィードバックを受けるので、双方が議論する絶好の機会です。そうすることで、誰もが互い

また、ケースコンペティションは、APU の多様でありながら協力的な環境を示すものであり、日本の高校生を APU に惹きつけるために不可欠なものです。

**8. 以前指導した学生とは、今でも連絡を取っていますか？また、コンペティション後、彼らの生活がどのように変わったかを話してください。また、このようなコンペティションから学生が得られるものは何だと思われますか？**

はい、今でも連絡を取り合っています。そして、学生の世代間をつなぐ存在になれるように頑張っています。APU では、お互いがより成功するために、強い絆で結ばれています。すでにケースコンペティションに参加している先輩たちは、その知識を後輩たちに伝えたいと考えています。それが、APU のような若い大学に入るメリットの一つです。どの世代もまだ

に新しいことを学ぶことができます。今後、より多くの先生や学生がこのような活動に参加し、APU がお互いに議論し、学び合う最高のコミュニティとなることを願っています。

**Q11. これからコンペティションに参加しようとする学生や教員にメッセージをお願いします。**

ケースコンペティションはチャレンジングです。相手も負けず劣らず、時間もかかるし、努力してもすぐには勝てないかもしれません。しかし、振り返ってみると、そこで得た人脈や知識、経験がかけがえのないものであることに気づくはず。そこで、学生の皆さん、教職員の皆さんへのメッセージです。「ケースコンペティションに参加しよう！」

つながっているので、知識を共有し、支え合うネットワークを簡単に作るができるのです。

学生にとってケースコンペティションに参加する最大のメリットは、同じ興味を持つ友人やメンターと関係を作れることだと思います。こうしたつながりは一生続くかもしれませんし、将来のキャリアのためのネットワーク作りという点でも役に立ちます。今でも、特にマーケティング業界で働いている卒業生から、現在のキャリアについて電話で相談や質問を受けることがあります。

**Q9. 先生の経験を通じ、コンペティションで学生を助けるためにメンターが持つべき素質は何だと思われますか？**

専門的な知識が重要です。私が金融についてももっと知っていれば、CFA でより良

いアドバイザーになれたかもしれません。しかし、知識だけが資格ではありません。優れたメンターは、チームをサポートし、最初から最後の最後まで学生のモチベーションを高めることも必要です。例えば、CFA コンペティションは6ヶ月の期間を要し、最終大会に向けてはさらに6ヶ月間の激務と精神的なきつさがあるため、チャレンジングな大会となりました。このような上位大会の競争原理により、途中でチームメンバーが疲れてやる気をなくすことも多いので、最後までベストパフォーマンスを維持できるようにモチベーションを保つことが本当に重要です。また、教員も熱意を持って学生と向き合い、困ったときは教員に助けを求めることを促していくべきです。学生は最初、教員に「迷惑をかける」ことをためらうかもしれませんが、メンターを含めた素晴らしいチームは、常にお互いに頼り、助け合うことができるはず。です。



Project Q のメンバーと李 根熙教授

# インタビューの感想

李根熙教授の APU と学生に対する熱い思いが、わずかな時間のインタビューから伝わってきました。教員として、学生を指導し、サポートする一方で、学生自身が解決策を見出すことを求めており、その指導方法にも熱心さが感じられます。

CFA 決勝戦では、李根熙教授ご自身が東京まで出向き、膨大な仕事をこなしながら学生を応援していたのが印象的でした。先生の熱意と愛情が、学生チームの勝利につながったのだと思います。

今後も李根熙先生のご活躍を祈念しています。そして、李根熙先生の成功が他の APU 教員の模範となり、学生が成功への道を歩むよう指導してくれることを願っています。

# インタビュアー&ライター



名前：ファム・チャン・チュック・アイン

学部：APS (CSM)

出身：Vietnam

メッセージ：はじめまして！文化社会メディア専攻の3年のアンです。読書と文章を書くことが好きで、将来はプロの小説家か脚本家になりたいと思っています。ALRCS のプロジェクト Q に参加することで、大好きな APU に貢献しながら、文章を書く練習やスキルアップもできるなんて、まさに夢のようです。この記事を読んでくださった読者の皆様に、心から感謝し、私たちの議論から何か有益なものを見出していただければ幸いです。

# 「Q」とは

APU で素晴らしい授業を行っている先生方はたくさんいらっしゃいますが、先生方が授業中にどのような工夫をしているのか知ることが出来れば、他の先生の授業改善にも役立つ。そのために、インタビューをして授業の工夫を教えてもらいたい、ということで始めた取り組みです。この記事は、授業の「Quality=質」を高める、質を高めるための「Question=問」に答える、授業改善の「Queue=列」をなす、など、色々な意味を込めて「Q」と名付けました。先生方の授業の質向上の「Quest」に役立てられると幸いです。



# インタビュアー

名前：ロレッニジ・ケリー

学部：APS (ED)

出身：マーシャル諸島

メッセージ：ヤッコエ（こんにちは）！

3 回生で環境・開発専攻のリーと申します。旅行とウクレレを引くことが大好きです。私たちの記事を読むことにより、読者みなさんが先生方が教えてくださった教授法の中から、大切な知識を得られることを願っています。

